

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第4巻第32号

第32週(8月2日～8月8日)

発行年月日:平成16年(2004年)8月12日

発行:滋賀県立衛生環境センター内

滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1) 全数報告の感染症(1類～5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (32週)	累積報告数		平成15年報告数	
			滋賀 (32週)	全国 (32週)	滋賀	全国 ^(*)
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	6	284	7	459
	腸チフス	0	1	36	0	60
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5	15	1873	8	2635
4類感染症	E型肝炎 ^(*)	0	1	19		
	オウム病	0	1	30	1	44
	ツツガムシ病	0	0	97	2	380
	マラリア	0	1	34	0	77
	レジオネラ症	0	0	80	1	143
5類感染症	アメーバ赤痢	0	6	351	3	504
	ウイルス性肝炎	1	2	172	3	634
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	97	3	115
	後天性免疫不全症候群	0	4	672	8	949
	ジアルジア症	0	1	49	0	99
	梅毒	0	2	295	2	493
	破傷風	0	2	57	1	69
	急性脳炎	0	0	39	0	98

*1:平成15年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。

*2: " 感染症法の改正前のためE型肝炎のみの集計はされていません。

2) 定点把握の対象となる5類感染症

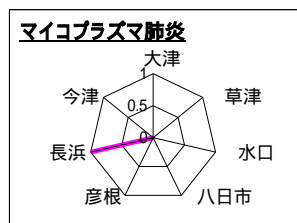
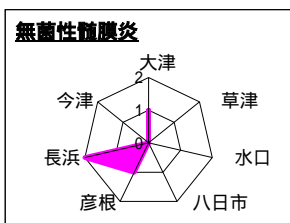
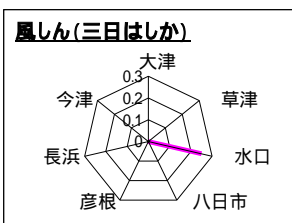
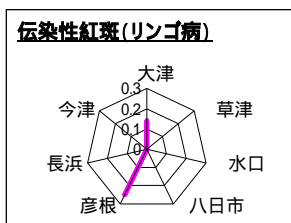
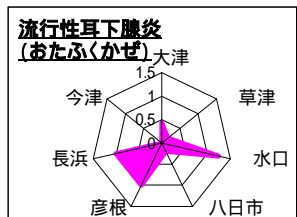
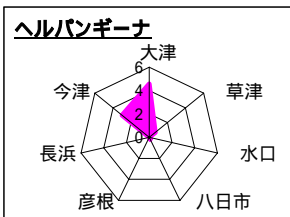
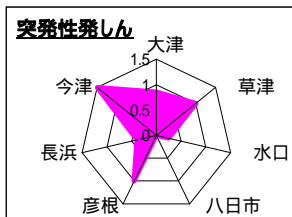
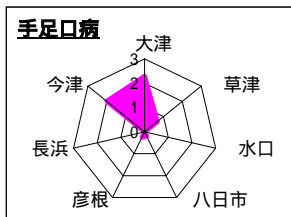
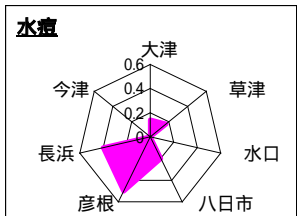
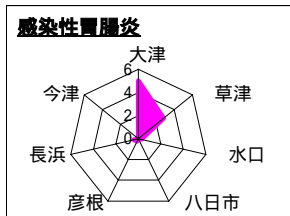
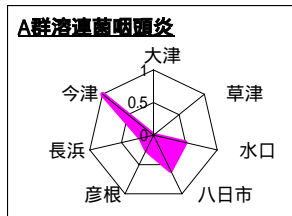
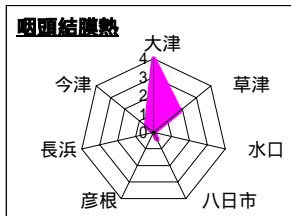
(1) 疾病別・週別発生状況

疾患名	定点当たり患者数 (前週より増加 前週と同じ 前週より減少)											
	27週		28週		29週		30週		31週		32週	
	(6/28～)	(7/5～)	(7/12～)	(7/19～)	(7/26～)	(8/2～)	28	29	30	31	32	
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0						
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0						
咽頭結膜熱	1.48	1.70	2.18	1.64	1.45	1.27						
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.33	0.52	0.52	0.15	0.18	0.27						
感染性胃腸炎	1.94	1.70	1.85	1.82	1.52	1.70						
水痘	1.06	0.82	0.45	0.36	0.36	0.21						
手足口病	0.24	0.30	0.52	0.36	0.73	0.79						
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.12	0.09	0.03	0.06	0.06	0.06						
突発性発しん	0.79	0.76	0.76	0.70	0.73	0.67						
百日咳	0	0	0.03	0	0	0						
風しん(三日はしか)	0	0.06	0	0	0	0.03						
ヘルパンギーナ	2.15	2.52	2.61	2.06	2.03	1.30						
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0.03	0	0	0	0						
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.85	0.58	0.91	0.30	0.48	0.58						
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0						
流行性角結膜炎	0	0.14	0.14	0.14	0.14	0.14						
細菌性髄膜炎	0	0	0	0.14	0	0						
無菌性髄膜炎	0.71	1.00	0.29	1.14	0.86	0.57						
マイコプラズマ肺炎	0.43	0.43	0.29	0.43	0.14	0.14						
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0						
成人麻しん	0	0	0	0	0	0						

(2)疾病別・保健所管内別発生状況

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	1.27	4.00	1.83	0	0.40	0	0	0.50
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	0.27	0	0	0.50	0.60	0.25	0.20	1.00
感染性胃腸炎	1.70	5.00	2.83	0.25	0	0.25	0.40	0
水痘	0.21	0.14	0.17	0	0.20	0.50	0.40	0
手足口病	0.79	2.29	0.67	0	0.20	0.25	0	2.00
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.06	0.14	0	0	0	0.25	0	0
突発性発しん	0.67	0.86	1.00	0.25	0	1.00	0.40	1.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0.25	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	1.30	4.57	0.67	0	0.20	0	0	3.00
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.58	0.43	0.17	1.25	0.20	1.00	1.00	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.14	0	1.00	0	0	0	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.57	1.00	0	0	0	1.00	2.00	0
マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)



今週の発生状況:

保健所管内別の発生状況は上記のグラフに示すとおりですが、突発性発しんについてはほぼ県内全域から報告されています。無菌性髄膜炎については先週より減少していますが、彦根および長浜保健所管内からの報告が多くなっています。また伝染性紅斑、風しんおよびマイコプラズマ肺炎についても報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といいます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

腸管出血性大腸菌感染症の発生が急増 滋賀県における全数報告感染症の概要(平成16年第1週～第32週)

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(7月26日～8月1日)の報告数より少なくなっていますが、A群溶連菌咽頭炎、手足口病、流行性耳下腺炎、感染性胃腸炎等の発生はやや増加傾向となっています。咽頭結膜熱は先週に引き続き減少傾向を示しています。また、風しんの発生が水口保健所管内から報告されています。(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフを参照)。

咽頭結膜熱については、3週連続して減少し定点当たり患者数は1.27となっていますが、**大津保健所管内**においては4.00とやや多くなっています。

手足口病については、先週に引き続き増加し**大津**および**今津保健所管内**において多くなっており、定点当たり患者数はそれぞれ2.29、2.00となっています。

ヘルパンギーナについては、先週より減少し定点当たり患者数は1.30となっていますが**大津**および**今津保健所管内**において多くなっています。定点当たり患者数はそれぞれ4.57、3.00となっています。

腸管出血性大腸菌感染症(O157等)の予防について

平成16年8月8日現在の発生数は、昨年同時期の発生数(7件)より増加し15件となっています。今後も発生する可能性があるため発生予防に対する一層の注意が必要です。

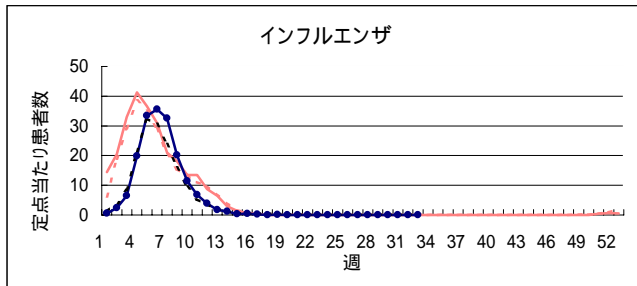
1. **十分な手洗いをする** 排便後、食事の前、下痢をしている子供や高齢者の排泄物の世話をした後は、せっけんを使い流水で十分に手を洗う。
2. **調理時の注意**
 - 1) 食材などは、流水で十分に洗う。
 - 2) 加熱調理時には、食品の中心温度が75℃、1分以上となるよう十分に加熱する。
 - 3) 調理した食品は、なるべく早く食べる。
 - 4) まな板、包丁などの調理器具は、漂白剤や熱湯で消毒し清潔にしておく。
3. **家族内の2次感染を防ぐ**
 - 1) 家族内に下痢などの症状を示す人がいる時は、便を処理した後の手洗いを十分にする。
 - 2) " " 入浴時の混浴を避ける。
 - 3) トイレや入浴時のタオルの共用を避ける。

滋賀県における全数報告感染症の概要(平成16年第1週～第32週)

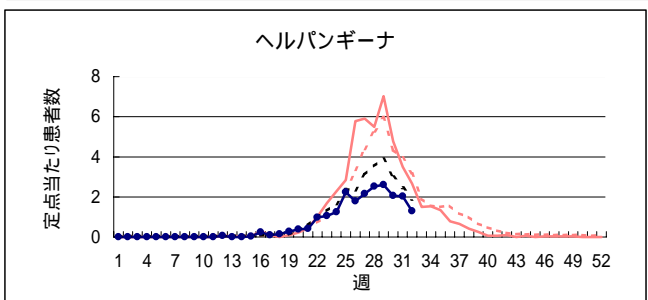
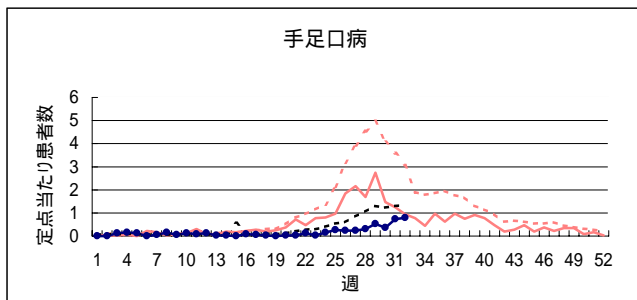
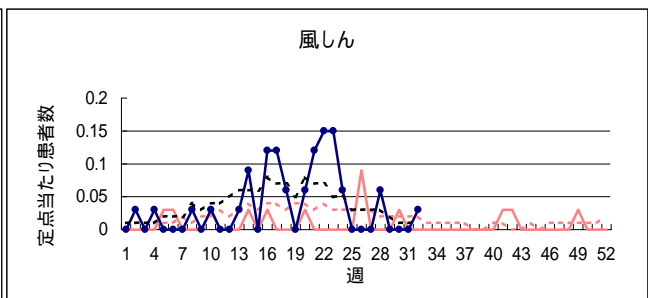
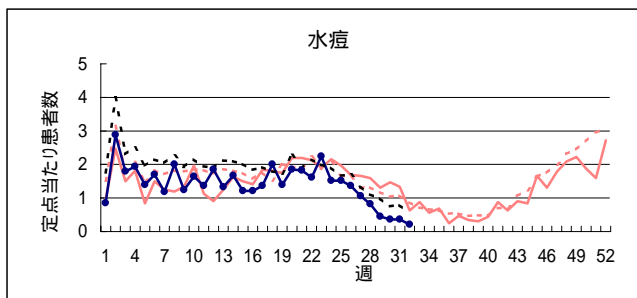
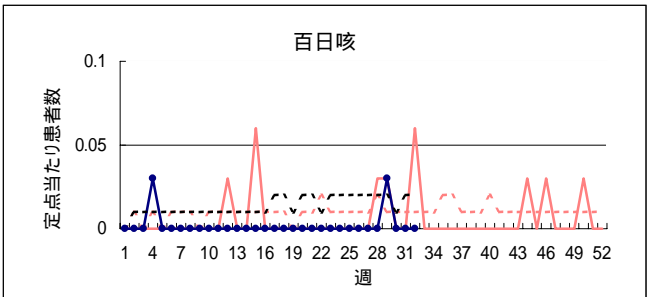
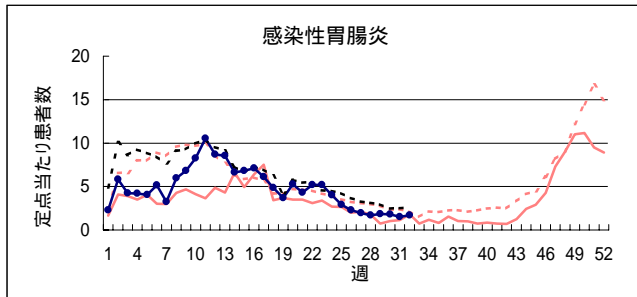
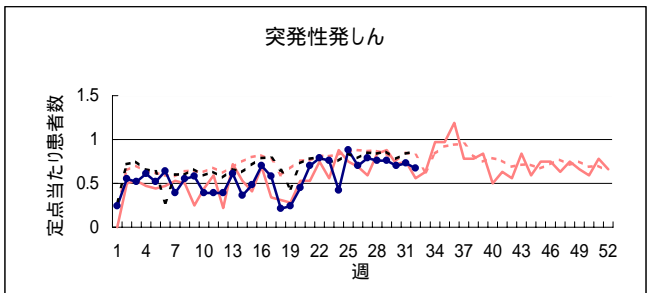
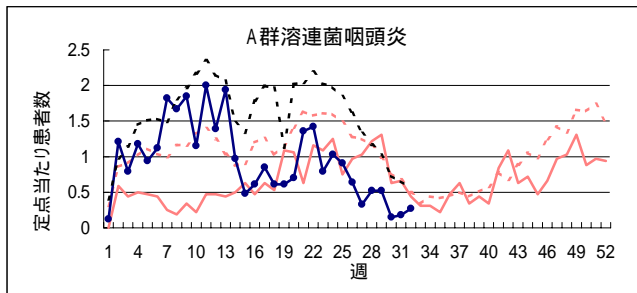
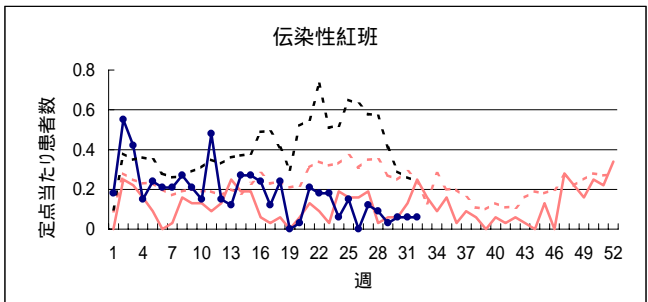
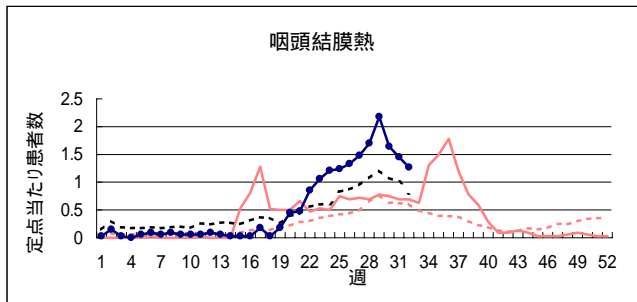
感染症類型	疾患名	1～28週の 累積報告数	29～32週の 報告年月日	概 要
一類感染症	報告なし	0		
二類感染症	細菌性赤痢	5	H16.7.16	菌種:ソクネ 推定感染地域:インドネシア 推定感染原因・感染経路:乳製品の経口感染
	腸チフス	1	報告なし	
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	5	H16.7.15	血清型:O157 産性毒素型:VT1(-)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:食物
			H16.7.18	血清型:O157 産性毒素型:VT1(-)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.7.22	血清型:O157 産性毒素型:VT1(-)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.7.30	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(-) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.8.1	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.8.2	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:経口感染
			H16.8.2	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.8.2	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.8.2	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
			H16.8.5	血清型:O157 産性毒素型:VT1(+)VT2(+) 推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明
				* VT1:ベロ毒素1型 VT2:ベロ毒素2型
四類感染症	E型肝炎	1	報告なし	
	オウム病	1	報告なし	
	マラリア		H16.7.22	推定感染地域:ケニア 推定感染源・感染経路:ハマダラカ
五類感染症	アメーバ赤痢	6	報告なし	
	ウイルス性肝炎	1	H16.8.4	B型肝炎 推定感染地域:日本国内 推定感染経路:不明
	後天性免疫不全症候群	4	報告なし	
	ジアルジア症	1	報告なし	
	梅毒	2	報告なし	
	破傷風	1	H16.7.30	推定感染地域:日本国内 推定感染原因・感染経路:不明

全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第32週、H15.12.29～H16.8.8)



H15 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)
 H16 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成16年第1週～第32週、H15.12.29～H16.8.8)

H15 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H16 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

